

大地震から地域を守れ

津市総合防災訓練を実施

津消防タイムズ

第42号



↑災害現場から避難する参加者

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画広報担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
☎224-1881
救急医療情報案内
☎256-1199

○総勢約八百人が参加

十一月二十三日、津競艇西駐車場（津市藤方）で、津市総合防災訓練が開催されました。午前九時に、東海・東南海・南海大地震がほぼ同時に発生し、津市内で震度六強を記録、建物の倒壊、火災の発生、ライフラインの寸断などの甚大な被害が生じ、人的被害も多数出ているとの想定で訓練が始まりました。

訓練には、津市消防のほか、津市津消防団、津警察署、陸上自衛隊第三十三普通科連隊、津市自主防災協議会津支部、地域住民など三十五団体、約八百人が参加しました。訓練会場は北・中央・南区域に分かれて、北区域では消防や警察、自衛隊による救出救助訓練、中央区域では各団体による展示、南区域では煙体験や自衛隊による炊き出し、災害ボランティアセンターへの登録など市民参加型の訓練となりました。

また、高齢者や身体障害者などの災害弱者のための避難所開設

一事故車から救助を行う特別救助隊



→高層建物から救助を行う消防隊



や、三重モーターパラグライダークラブによる被災状況の確認、情報収集など多種多様な訓練が実施されました。

訓練終了後、松田直久津市長は「災害がいつ起こるか分からない状況の中、本番さながらの臨場感あふれる訓練となりました。これからも市民の安心・安全を守るため関係機関と更なる連携強化を図りたい。」と講評を述べていました。（高橋直通）



↑救急法ブースの巡視を行う松田市長

○日頃の訓練の成果を競う

職場防災競技会を開催

津市防火協会は、津市内の約四七〇の事業所等で構成される組織で、防火思想の普及高揚を図り、防災啓発等の活動を行っています。十月十五日、同協会主催による職場防災競技会が、メッセウイングみえ（津市北河路町）で行われました。

競技は、「消火器の部」「屋内消火栓の部」「救急法の部」の三種目が行われ、一一九番通報、初期消火及びAED（自動体外式除細動器）を含んだ心肺蘇生法等の確実性、迅速性、安全性を競うものです。

当日は、二十九事業所四十四チーム、八十八人が参加し、職場の安心・安全を守るため、日頃の訓



↑屋内消火栓の部

練の成果を発揮していました。

各競技の最優秀事業所は、以下の通りでした。（田村公一）

【消火器の部】

▽パナソニック電工株式会社
津工場

【屋内消火栓の部】

▽株式会社アンセイ三重工場

【救急法の部】

▽旭電器工業株式会社



→消火器の部



→救急法の部

○緊急消防援助隊の訓練に参加

平成二十一年度緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が十月十七日、十八日に福井県坂井市で、同援助隊中部地域ブロック合同訓練が十一月六日、七日、富山県射水市でそれぞれ行われました。

今回、この二つの訓練に津市消防本部消防救急課から三人が、両県へ視察に出向しましたので、その概要を紹介します。

緊急消防援助隊は、平成七年一月十七日兵庫県南西部地震（阪神・淡路大震災）の教訓を踏まえ、大規模な地震災害や特殊災害等の広域災害時に、都道府県の枠を超えて、迅速かつ効果的に人命救助等の応援活動を実施することを目的に創設されました。毎年全国各地域において同隊が効果的、効率的に機能するように「地域ブロック合同訓練」が実施され、有事即応体制を整えています。

今回、津市消防からは、近畿ブロック合同訓練（参加合計人員三千六百二十二人、航空機二十一機、船舶十隻、車両二百二十二台）に、津市久居消防署から消防隊一隊（五人）が参加しました。また、中部ブロック合同訓練（参加合計 人員三百八十九人、航空機九機、車両九十四台）には、津市北消防署から救急隊一隊（三人）が参加し、それぞれ三重県隊として与え

られた想定に対し、「安全」・「確実」・「迅速」に県内隊と連携を取って活動しました。

来年度は、近畿ブロック合同訓練（近畿二府七県合同防災訓練）が津市で開催されます。現在、津市消防本部では、来年度の同訓練を通じて、三重県（津市）が被災した場合の受援体制の確認や近畿ブロック各隊と非常時に機能し得る消防体制が確立できるように、諸準備を進めています。（佐藤 昭人）



↑近畿ブロック出発式を行う久居消防署消防隊

↓中部地域ブロック出発式を行う北消防署救急隊



○イオン救急フェアを開催

「救急の日」(九月九日)を前に、救急医療週間中の九月六日にイオン津南ショッピングセンター・サンバレー(津市高茶屋小森町)で「救急フェア」が開催されました。

このイベントは、救急車の適正利用や応急処置への理解を深めてもらうことを目的に、津市消防と津市津消防団、三重県看護協会津地区支部の約二十人の職員がAEDの取扱い方や健康相談、骨密度測定などを実施したもので、当日は約二百人の買い物客らが足を止めて、実技等に取り組んでいました。

参加者からは「心肺蘇生法やAEDの取扱いを実際に体験することができて、とても勉強になりました。」と述べていました。(平子泰史)



←シロモチくんも応援に来ました



→心肺蘇生法を体験する来場者

○防災のつどいに

津市消防音楽隊が参加

九月二十六日、伊勢湾台風襲来から五十年目にあたるこの日を「三重風水害対策の日」と定め、桑名市木曾三川公園輪中ドームで、防災意識の高揚と災害に強い地域づくりを目的に、三重県主催による「二〇〇九防災のつどい・みえ」が開催されました。

これに、津市消防音楽隊と松阪地区広域消防音楽隊が参加し、合同演奏を行いました。松阪地区広域消防音楽隊との合同演奏は十五年ぶりで、いつもより音に厚みのある演奏で来場者の方々が楽しんでいました。(松田泰)



↑合同演奏を披露する津市消防音楽隊と松阪地区広域消防音楽隊

○津市津消防団が

総合訓練を実施

津市津消防団は、九月十六日、十七日、二十四日、二十五日の四日間、火災や震災等の大規模災害に備え、消防団員としての技術及び知識を習得し、有事の際に効果的に消防団活動を実践できるようにすることを目的に総合訓練を実施しました。

訓練は、津市津消防団の十八分団から各分団十人程度の団員が出席し、消防団活動の基礎的な訓練として、吸放水訓練や水害時の水防工法訓練、また大規模地震時における対応訓練として、担架作成と搬送要領等の救出救護訓練、チェンソーや油圧ジャッキを使用した救助資機材取扱訓練を実施しました。

参加した団員らは、万一の際に地域住民の安心・安全を守るため、熱心に訓練に取り組んでいました。(伊藤勇希)



→資機材取扱訓練を行う消防団員



←放水訓練を行う消防団員

○遭難者を救え!

津市白山消防署と同消防署美杉分署、津南警察署は合同で十月十日、美杉町川上にある修験業山(標高一〇九三メートル)で消防・警察合同山岳訓練を消防職員八人、警察職員十六人が参加し、実施しました。毎年この山では、登山者が道に迷うなどの事故が多発するため、山岳救助事案発生時の連携の強化と火災及び事故防止を目的に訓練を行いました。

訓練は、危険箇所及び無線、携帯電話通話可能場所の調査を行い、警察職員は登山道に標識を設置し、消防職員は山火事防止の立て看板を設置し、火災予防の注意喚起

を行いました。

当日は、台風十八号通過の影響で登山道が崩れ、厳しい状況の中で行われ、実践さながらの訓練となりました。(岡林隆志)



→火災予防の看板を立てる消防職員



→救助訓練を行う警察職員

○秋の火災予防運動に伴う

訓練を老人ホームで実施

津市久居消防署は、秋の火災予防運動初日の十一月九日、社会福祉施設「山水・喜楽苑」(津市一志町其倉)で、消防職員、入居者、施設職員約七十人が参加して、消防訓練を実施しました。

今年三月、群馬県で高齢者が入居する施設で発生した火災で、十人の尊い命が失われ、全国的にも同様の施設での火災が多発しています。これらの惨事を教訓に、施設関係者の初期消火及び避難誘導技術の向上を目

的に行われました。

訓練は、台所から出火したとの想定で始まり、施設職員が次々と入居者を安全な場所まで避難させると、到着した同消防署の各隊が火災防御や救急搬送を行いました。

参加した同消防署の羽田充洋副署長は「福祉施設での火災が増えている中、実践的な訓練ができて有意義だった。」と述べていました。(田村和也)



→入居者を避難させる老人ホーム職員



→指揮本部を設置し、聴取を行う指揮隊

○三重矯正展で消防展示

九月二十六日、三重刑務所(津市修成町)で第二十三回三重矯正展が開催されました。津市中消防署からは消防職員四人、津市防災指導センターからは職員一人が出向して、救助工作車と住宅用火災警報器パネルの展示、心肺蘇生法とAEDの取扱いなどを行い

ました。

当日は秋晴れのさわやかな一日となり、会場を訪れた家族連れの方々が救助工作車をバックに記念撮影をしたり、事前に申込みをされた来場者二十人が熱心に救急法に取り組んだりしていました。(松田憲晃)



↑心肺蘇生法を体験する来場者

○三重中央医療センターで

トリアージ訓練を実施

九月三日、独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター(津市久居明神町)で大震災を想定して、同センター職員や津市久居消防署員など総勢二百人が参加して、トリアージ訓練を実施しました。

トリアージとは一度に多数の傷病者が発生した場合、重症度や緊急性に応じて優先順位を決めるというものです。阪神・淡路大震災を教訓に普及したもの

で、JR福知山線脱線事故や秋葉原通り魔事件などで実際に行われました。

訓練では、怪我の程度を示した紙を首から下げた看護学生を医師が次々とトリアージし、トリアージタグに応じて搬送、処置をしていきました。

参加者は、万一の際に一人でも多くの命を救うため、真剣に訓練に取り組みていました。(高橋直通)



↑トリアージタグに応じて次々と搬送を行う訓練参加者

○小学生が消防団車庫

や消防署を見学

津市立千里ヶ丘小学校の四年生児童九十人が、社会科における「安全な暮らしを守る」学習を推進するため、九月二十九日に津市河芸町千里ヶ丘にある河芸

消防団第四分団車庫、九月三十日に津市北消防署河芸分署を見学に訪れました。

消防団車庫見学では、浅井信義第四分団長から消防団の仕事の内容や苦勞した点などの説明を受け、児童らは約一時間にわたり積極的に質問をしていました。また、河芸分署では、消防車、救急車、庁舎の班に分かれての見学を行いました。その中で児童らは、車両積載の装備や通信指令機器など、普段見ることのできない機械に興味津々で職員の説明に聞き入っていました。(笹村晶紀)



↑消防団員の説明を熱心に聞く小学生ら

○防火キャンペーンを開催

津市消防本部予防課は十一月八日、ジャスコ久居店(津市久居明神町)で防火キャンペーン

を開催しました。空気が乾燥し、火災が発生しやすくなる季節に向けて、防火意識を持つてもらうために、秋の火災予防運動にあわせて実施したものです。

今回の防火キャンペーンでは、一一九番通報体験や住宅防火推進、防災用品展示等のほか、藤堂高虎キャラクターの「とらまる」も応援に来ていました。来店した買い物客らは「火事にならないよう気をつけます。」と述べていました。(田村公一)



↑来場者に防火を呼びかけるとらまる

○中学生が人命救助に挑戦

一身田中学校の二年生の男子三人が、九月十五日から十七日までの三日間にわたり、津市北消防署で職場体験を行いました。

これは中学生が事業所などで働くことを通じて、働くことの意味や社会の仕組みを理解し、自分の将来や進路について具体的に考える力を身につけることを目的に毎年行われるものです。

参加した中学生は、消防の基本的な知識から、消火訓練や救命講習、救助訓練などさまざまな業務を体験し、実際の消防の活動を肌で学んでもらいました。

中学生からは「消防の仕事がこんなにも大変なものだとは思わなかった。」と初めてのことに戸惑いがあるようでしたが、一方で「将来消防職員を目指したい。」との意見もありました。最初は声の小さかった生徒たちも、最終日の帰りには大きな声で「ありがとうございました。」とあいさつをしていました。彼らの将来に少しでも役立ってくれば嬉しいですね。(川北裕貴)



↑ホース延長を行う中学生

↓空気呼吸器を着けて救出訓練する中学生



○AEDにより心拍再開

九月十一日、津市中消防署で救急功勞者に対して中消防署長から感謝状の贈呈が行われました。

これは八月二十四日、津市本町にあるスポーツクラブにおいて、心肺停止状態に陥った六十代の男性に対して、二人の女性が心肺蘇生とAEDを使用した、呼吸と脈拍を回復させた尊い命を救った功勞をたたえるものです。

感謝状を受けたのは、佐伯春美さん（津市安濃町在住）と橋村幸恵さん（同市川添町在住）で、橋村さんは「救急法の勉強会をしていたのが役に立った。」と述べていました。（高橋直通）



↑津市中消防署で行われた感謝状贈呈式

○初任科生が卒業

十二月四日、三重県消防学校（鈴鹿市石薬師町）で、県内の新規採用消防職員一〇五人が所定の教養を終え、卒業を迎えました。

消防学校では、四月から八月間、法令や服務、消防職員としての基本的な戦術から応用訓練まで幅広く学び、現場活動に即応した技術・知識を磨いてきました。これから、地域の安心・安全を守る、若き精鋭として、配属されます。

津市消防は以下の二十二人が

新任消防士として各署所に配属されます。前田悠輔、川口勇氣、西村昌子、伊藤良介、小西正人、小山雅司、西出慶太、上原大、小野剛志、大東光、田中貴史、海野佑樹、吉川雄人、岸江康平、山口慧、松井一裕、中島敬太、山浦俊介、小林翔、門脇翔太、前川敦史、山本修豪（大東雄一）



↑緊張した面持ちで卒業証書を授与される初任科生たち

○経ヶ峰で消防・警察・自衛隊が合同で山岳救助訓練

十一月十九日、山岳救助に備えて、津市の四消防署（中消防署、北消防署、久居消防署、白山消防署）、三重県警察航空隊、津警察署及び陸上自衛隊第三十三普通科連隊の延べ七十四人が相互の連携強化と総合的な救助技術の向上を図るため、経ヶ峰（標高八一九メートル）一

帯で合同山岳救助訓練を実施しました。

訓練は、経ヶ峰山頂付近で登山者二人が遭難したという想定で、警察航空隊による偵察飛行訓練と、美里、安濃、芸濃の各登山ルート上における警察航空隊及び各ルート間の無線機による通信訓練、消防隊による遭難者の救出と自衛隊衛生班による救護訓練を実施し、発見、救助、搬送の各段階での連携を確認しました。（上杉 初男）



→要救助者を急斜面から引き揚げる救助隊



←訓練に参加した消防・警察・自衛隊

○自己の限界に挑戦

十一月十四日、名古屋テレビ塔（名古屋市中区錦）で、全国各地から百三十人の消防職員が一堂に集い、日本警察消防スポーツ連盟が主催する第三回ステアレースが行われました。

津市消防からは有志で、駒田竜司（消防救急課）、上杉初男、高岡敦、草深洋成（津市中消防署西

分署）の四人が参加し、完走を果たしました。

競技内容は、防火帽、防火衣、防火靴を着装し、一分間の制限時間内に六十キログラムの重りを持って八十メートル走る。パワーエリアと、空気呼吸器を着装し、二百四十五段の階段を一気に駆け上がるステアエリアがあり、その合計タイムで順位を競うものです。

上杉西分署長は、「消防の原点に立ち返り、災害現場で最も必要なものは何か、消防職員に求められる資質とは何か、市民が求める消防職員像とは何かを行動にして、実践していこうという思いで出場しました。」と述べていました。（駒田竜司）



→激走する隊員



←レースに参加した津市消防職員

火災や病気を未然に防げ！

〽️年末年始の火災予防に努めましょう〽️

年の瀬が近づくとつれ、何かと忙しい日々が続いているのではないでしょうか。そんなときこそ注意が散漫になり、火の消し忘れや寝たばこなどによる火災が発生しやすいときです。また空気が乾燥するこの時期は、毎年火災が多発し、多くの生命、財産が失われています。

今年の一月一日には富山で帰省中の家族六人の命が失われるという痛ましい火災が発生しました。年末年始火災を防ぐため、以下のことに注意しましょう。

- コンロのそばを離れるときは必ず火を消しましょう。
- 寝たばこはやめましょう。
- 家の周りには燃えやすいものは置かないようにしましょう。

○住宅用火災警報器を設置しましょう。

○コンセントなどにホコリを付着させないようにしましょう。

○風の強い日にはたき火をしないようにしましょう。



〽️石油ストーブは正しく使いましょう〽️

毎年、冬にはストーブが原因で火災が発生しています。津市内で昨年だけでもストーブが原因で七件の火災が発生しました。その多くは不注意な取扱いによるものです。以下のことに注意してストーブは正しく使いましょう。

○ストーブの周りには燃えやすいものを置かないようにしましょう。

○外出するときは必ず火を消しましょう。

○給油は火が完全に消えてから行いましょう。

〽️老朽化消火器の適切な取扱いについて〽️

今年の九月に大阪府と福岡県で腐食の進んだ消火器を操作したことにより、消火器が破裂し、受傷するという事故が相次いで発生しました。

そのため、消防署に老朽化消火器の取扱いに関して多くの問い合わせがありました。購入から年月がたっており、腐食が進んでいる消火器があればどうしたらいいのでしょうか。

○消火器の状態を確認し、腐食の進んでいるものは絶対に使用しないようにしましょう。

○不要になった消火器は自ら解体するのではなく、消防設備業者など回収を行っている事業所等に廃棄処理を依頼しましょう。(消防署では回収を行っていません。)



〽️新型インフルエンザ予防のための対策〽️

感染拡大中の新型インフルエンザに対していろいろな予防対策がありますが、その中でもまず感染しないために

○こまめな手洗いをしましょう。

○のどの奥の「ガラガラ」うがいもしましょう。

次に感染を広げないために

○発熱など調子の悪いときは、無理をせずに仕事・学校を休みましょう。

○咳エチケットを心がけましょう。また、外出を控えるなど、家族や周囲の人への感染に注意しましょう。

○早めに近くの診療所に相談・受診してください。受診する際には、必ずマスクを着用し、感染防止に努めましょう。



トピックス

○津市消防トレードマークが完成

津市消防は、平成十八年に行われた合併後の一体感の熟成や士気の高揚を図ることを目的に、トレードマークを作製しました。

デザインは初代津藩主の藤堂高虎が愛用したかぶとと、消防隊員が火災現場で使用する空気呼吸器を組み合わせて図案化したものです。

このトレードマークは、今後更新する消防車両などに順次取り付け、消防隊員が災害現場に駆け付けます。

←消防車両に取り付けられたトレードマーク



♪津市出初め式のご案内♪

○日時

平成二十二年一月十日(日)
午前九時～十一時三十分

○場所

式典(津市リージョンプラザ 三階お城ホール)
木遣り組及び分列行進(津市リージョンプラザ南側道路)
一斉放水(お城公園西側お堀)

新規車両紹介



↑中消防署と白山消防署に配属された高規格救急車

カメラアングル

←九月二十七日に行われた三重県消防学校初任科総合査閲の様子



→十一月十日に行われた指揮隊運用訓練

☆ 主な行事予定 ☆

◆十二月十五日(火)～一月十五日(金)
年末年始消防特別警戒

◆一月二十六(火)
文化財防火訓練(高田本山専修寺)

◆二月二十三(火)
津市消防職員意見発表会(津市消防本部庁舎)

◆二月二十八日(日)
防火キャンペーン(イオン津南ショッピングセンター・サンバレー)

◆三月十四日(日)
三重県消防大会(三重県総合文化センター)

ご家庭に住宅火災警報器を設置しましょう!
消防法の一部改正及び火災予防条例の改正により、平成20年6月から住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



～平成21年12月までの災害～
火災 101件(113件)
救急 10,469件(10,324件)
救助 150件(124件)
()内は前年同期

○編集後記

今年の十月に、北アルプスで遭難した人を救助に向かったヘリが墜落するといふ痛ましい事故が発生しました。私も登山が好きで、鈴鹿の山々や連休には北アルプスなどに出かけます。近年のレジャーブームで登山を楽しむ人が多くなってきました。

それと同時に山での事故や遭難が多発しています。そのため、津市消防では山岳救助訓練の実施や三重県防災航空隊との連携を強化してきました。しかし、何よりも事故を未然に防ぐことが重要です。

山での遭難や事故の多くは、無理な登山計画や防寒具などの準備不足で起きています。これからの季節、山は非常に美しい姿を見せながら、大変厳しい環境になります。安心して登山を楽しむため、事前準備を怠らないように心がけましょう。(高橋直通)